

まえがき

この本のテーマは「なんとかなる！」である。

これまで、努力とか我慢とか忍耐とか辛抱とか、日本人が重んじるこういった美德とはかけ離れたところで生きてきた。そんな私が、今どうにかこうにか経営者のはしくれのようなことをしているのは、私なりにつかんできた生きていくうえでの判断基準みたいなものがあつたからじゃないか、と思うようになったのだ。

ただ、私が「まあ、なんとかなる。これでいいじゃないか」と思えるようになるまでには、回り道というかずいぶん時間がかかったことも確かである。そして、結構近年になつてからのことだが、その回り道そのものにそれなりの意味があつたのではないか、と気がついた。そこで、「よし、そのところを書いてみよう」と思つたのである。

さて、誰しも自分にはなんか違う人生があつたんじゃないか、もっとマシな生き方があつたんじゃないか、と振り返ったり、迷つたりしながら生きているんじゃないだろうか。私はしばしばそんな思いにとらわれ、今生きているこれって「仮の（あるいは裏の）人生」で、本当はパラレルワールド

ドみたいな「表の人生」があったんじゃないか、という思いをずっと抱いてきた。実は、人生のわりと初めのほう（思春期の頃）で、かなり大きな挫折を経験したために、自分の人生を振り返るとき、どうしてもその原点に戻ってしまうのである。『やり直して効かないもんかなあ……』長い間そういう思いにとらわれてきた。

そう言いつつも、前述したように、近年「ん、待てよ?! これまでやってきたことつて意外にも正解だったのかもしれないぞ」と思い始めている。

というのは、冒頭から書いている、「俺は躓いてしまった。俺は間違っていた」という評価は、ほぼそのすべてに前提として、「世間の常識に照らし合わせたとき」という条件がつくからだ。これまで「世間的な価値観からすれば、どうも外れてしまった俺。だから俺はダメな奴だったんだ」という基準で、自分にダメのレッテルを貼り続けてきた。つまり、そっち側（世間一般）の価値観からだけで自分を見ていたような気がする。

しかし、その後の人生でさまざまな価値観を学んできた。複眼的に眺めてみれば、そんなにおかしな生き方、考え方でもなかったんじゃないか、と思えるようになったのである。

近年、「俺ってわりと面白いことをやったり考えたりしてきたのかもしれない」とさえ思っている。つまり今まで、こんなじゃダメだ！ と決めつけていた自分に関するいろんなことは、地域とか

業界とか世代とかの常識に合わなかっただけで、むしろ、今になってそこが時代と一致してきているのではないのか、と思うようになったのだ。

そう思えるようになったためか、普段、時代とのズレをあまり感じないので、仕事や生活を結構ストレスなく楽しめている。

そういうわけで、今のこの感覚は、職業上（税理士です）で、経営者やそのほかビジネスマンの方たちに対してお伝えしたいことでもある。思春期の頃のドジないきさつからおかしくなってしまう、と想像していた私の人生だが、その後の展開が皆さんにとって何かの参考になるのでは？ と考え直し、そのことを書いてみようと思ったのがこの本である。果たして「なんとかなる」の精神が、皆さんのお役に立てるかどうか……最後まで読んでいただけると幸いです。